

日本教育岩手

● 〒020-0024 盛岡市菜園1-11-15

日本教育会岩手県支部 TEL 019-623-8100

● 代表 川村 祥平



インクルーシブな

学校運営モデルへの期待

岩手県特別支援学校連絡協議会 会長 近藤 健一

(岩手県立盛岡視覚支援学校長)

令和五年三月、「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告」(以下、報告)が取りまとめられました。報告では、障がいのある子供と障がいのない子供が可能な限り同じ場で共に学ぶための環境の整備をはじめ、よりインクルーシブな社会の実現に向けて関連施策等の一層の充実を図ることが求められています。

具体的には、特別支援教育に関する校内支援体制の充実、高等学校を含めた通級による指導の充実、特別支援学校における小中高等学校等へ助言援助等のセンター的機能の充実、インクルーシブな学校運営モデルの創設、の四点が整理されました。中でも、特別支援学校が有する専門的な知見や施設設備等のリソースを活かし、特別支援学校と小中高等学校のいづれかを一体的に運営する「インク

ルーシブな学校運営モデル事業」が、今年度から全国の十団体において推進されています。

A県では、小学校と特別支援学校において、これまで行われてきた交流及び共同学習を発展的に進めるための体制、教育課程の連続性、柔軟な教員配置等について研究が進められています。B県の先行事例では、同一敷地内に特別支援学校と高等学校を併設、校長や一部職員は両校兼務、時程を合わせるなど交流しやすい環境設定、障がい理解の授業実践などを進め、共生社会を目指す教育のモデルケースとなっています。

本県においては、特別支援学校在籍の児童生徒が居住地の小中学校の授業等に参加する「交流籍を活用した交流及び共同学習」の実施や、小中高等学校の校舎内に「特別支援学校分教室」を設置し交流及び共同学習を日常的に行うな

ど、共に学ぶための取組が進められてきました。今後は、それらの取組を継続するとともに、前述したインクルーシブな学校運営の取組が期待されるところです。

そのような中、今年度の岩手県教育委員会経営計画において、二戸地区における特別支援学校の整備については、本県におけるインクルーシブな学校運営のモデルとなるよう取り組みが示されました。これは、県立北桜高等学校工業校舎の敷地内に特別支援学校校舎が併設される計画で、令和八年四月の開校が予定されています。これまで本県が進めてきた取組の成果を活かし、先行事例や文部科学省事業のモデル校の取組に学びながら、教育内容の連携、教職員の連携が進められ、障がいのある人もない人も共に学び共に育ち、地域で共に生きていく、そのような姿を目指した取組となることを期待したいと思います。

共生社会の実現に向けて、このような取組が県内の他の地域でも、他の校種間でも進められていくことを願っています。

支える働き、つまりアイデンティティーを育てないと木は真つすぐには育たないし、太くも、高くもなりません。栄養素を含んだ命水がおおだて型授業で、単なる知識だけではなく、豊かな人間性を育てるための栄養素をこの木の細胞に届けるのが授業という考え方です。光の道によって光合成が行われ、成長のエネルギーが生み出される。この木は高みを目指して伸びていきます。

大館ふるさとキャリア教育のコンセプトは「大館盆地を学舎に、市民一人一人を先生に」です。ふるさとキャリア教育の三本柱は「百花繚乱作戦」「子どもハローワーク」「おおだて型授業（響学）」です。

百花繚乱作戦

百花繚乱作戦は、各校のふるさとキャリア教育のメイン活動を示す言葉で、小学校では、ふるさとの物・人・事を学んでシビックプライドを育てることが目的になり、中学校では地域社会に出ていっていろんな体験・社会貢献を通してキャリアを育てていきます。

釈迦内小学校のサンフラワープロジェクトは、地域の方々と一緒に休耕田にヒマワリの種を植え、その種を収穫し、油を搾って販売します。いろんなイベントや大館のショッピングセンターにも販売コーナーがあります。実は年間百万円ぐらいの収益金上がるものです。その収益金を使って、他

の小学校は1泊2日ですが3泊4日の修学旅行に行き、漁村で地引き網を引いたり、乳牛の乳搾りをしたり、普段できないようなことをして子どもたちに還元しているそうです。昨年度は子どもたちが東京まで出かけて行って、ヒマワリの収益金をウクライナ大使にわたしました。ロシアのウクライナへの侵略が始まりました。ヒマワリはウクライナの花なのです。

子どもハローワーク

子どもハローワークの一番大きな行事が、「きりたんぽまつり」です。十月上旬に三日間、樹海ドームで行われ、十四万人ぐらいの人がいらつしやいます。これを手挙げ方式で、六百人の小中高生がボランティアとして支えています。北東北最大の食の祭典を自分たちが支えているという自信と誇りが育ちます。

おおだて型授業（響学）

おおだて型授業（響学）の九つの特長の中で、時間の関係で特に三つについて述べます。

最初に、「なぜ学ぶのか」が、「主体的学び」の根源ということ。子どもたちの内面から湧き上がってくる学習意欲が主体性であり、主体的学びにはキャリア教育が効果的です。

次に、対話力強化は「傾聴力＋反応力＋ジョイント力」ということです。大館では発表力強化の前

提として、聞く力を育てています。大人だつて聞いてくれる人がいないと、お話なんかできないのです。聞く力、聞いたら反応する。そして、つなぐ、他の次の子につないでいくというようにサイクルを、ずっと回しています。

その次は、誤りや失敗も推進力に変える「共感的協働力」ということです。これは大館の授業の一番の特色だと思います。学校訪問に行き授業参観で1年生のクラスに行つたとき、先生が黒板に書いて、「これについて説明してくれ人はいませんか」と言つたら、4、5人手を挙げ、「Aちゃんお願いします」と言つてAちゃんが説明しようとした瞬間「忘れまして」と悲しそうな声で言いました。その瞬間、学級の全員が「ドンマイ」と声をかけたのです。「Aちゃんを助けます」と4、5人手を挙げ、Aちゃんは「Bちゃんお願いします」と言つてBちゃんが来て「これはこうだからこうだ」ということをAちゃんは言いたかつ



講師の話す姿

たと思います。Aちゃんどうですか」と言い、Aちゃんはどうなずいて、「皆さんどうですか」とつないでいく。これはすごいと思いました。1年生ですよ。授業はかくあるべきと思いました。このように「共感的協働力」が大館の授業の根幹になっていきます。たとえ中学校3年生であっても、すぐ誰かがつないでくれます。

授業マイスター制度

大館独自の授業マイスター制度をつくっています。授業力のクオリティーの高い教員をマイスターに認定し、大館の若手教員は年二回マイスターの授業を見る機会があります。また、世田谷とか北海道・沖縄等からの来校要請があります。

おわりに

権力と財力があれば、命令したお金で一時的に人を動かすことはできるのですが、人を変える力はないのです。

人を変える力をもっているのは教育だけです。人が一人ずつ人を変えていけば、いずれ社会も、時代も変えることができます。この混沌とした時代で教育の力が試されているのだと思います。で、どうぞ皆様方も自分の関わっている教育の中で、そういう思いを持ちながら進めていただければありがたいです。

一度大館にお越しください。本日は、ご静聴ありがとうございました。



オンラインで研修中の佐々木副校長

第32回 学校心理カウンセラー研修講座



学校心理カウンセラー研修講座 報告

久慈市立久慈湊小学校

副校長 佐々木 圭子

岩手県支部では、東日本大震災で児童生徒の心のサポートが特に重要になった沿岸の5地区会（気仙、釜石、宮古、下北、九戸）を中心に、日本教育会が主催する「学校心理カウンセラー研修講座」に養護教諭等を派遣して9年目になる。今回は九戸地区から大阪市で行われた研修会にオンライン研修で2名の先生方に参加をいただいた。研修内容等について報告をお願いした。

本研修講座は、学校不適応、不登校、いじめなど、カウンセリングや教育相談を必要とする問題が多発する近年の状況において、学びの多い内容でした。

石隈利紀先生による「チーム学校を支える学校心理学入門」では、心理教育的援助サービスの基礎概念について教えていただきました。すべての子どもへの予防的・促進的援助を「一時的援助サービス」とし、物理的・心理的・社会的環境において、安全・安心であることが重要であると学びました。また、リスクの高い子どもへの「二次的援助サービス」や特別な援助ニーズをもつ子どもへの「三次的援助サービス」では、予防的援助や個別的援助が不可欠であることも再確認しました。

家近早苗先生による「学校でのカウンセリングの実際」では、学校で援助できることのメリットや具体的サポートについて教えていただきました。学校生活における心理支援を、環境と子どもとの相互作用から要因を探ること、子ども自身を育てること、環境を育てることの三つの視点で考え、実践していくことが大切だと感じました。小泉令三先生による「社会性と

情動の学習」では、対人関係に関するスキル・態度・価値観を育てることの重要性を教えてくださいました。社会性（人間関係力）が育まれることで自尊心が高まり、規範意識や学習規律が身に付くとお話から、学校適応や学力にも大きく影響するところであることができます。社会性と情動の育成に



学校心理カウンセラー研修講座 報告

久慈市立久慈中学校

養護教諭 相澤 里利香

今回の講座を通して、多感な中学生の心との向き合い方についての学びを深めることができました。

保健室に来室する生徒は怒り等のなんらかの不快感情を抱えていますが、「自分が抱えている感情がわからない」もしくは「自分の感情を伝えられない」生徒が多いと感じます。そのような生徒に対し、どう関わり、支援していくべきか悩むことが多くありました。

その中で「『怒り』感情の大切さと心の健康」についての研修を受け、自分の感情を適切に言語化する「感情の社会化」という概念を学びました。これは心を健康に保つために必要であり、「生きる力」につながると思います。生徒の生きる力を育むために、「自分の中にある感情を実感させること」「感

有効なSELプログラムについて、今後も学びを深めたいと思います。

本校でもカウンセラーの役割が重視される現状にあります。本研修講座の学びを生かしながら、校内の教育相談体制の充実を図り、学校教育目標にある「笑顔いっぱい」の実現に努めたいと思います。

情を言語化させること」「不快感情は生きていく上で必要だと伝えること」を意識し、日々の関わりで実践していきたいと思っています。

安心できる保健室という場で、心にアプローチしやすい養護教諭という強みを活かして感情の社会化を促していきたいです。

今回得た学びを今後も実践し続け、校内でも共有し、より一層生徒たちの心の健康づくりに励んでいきます。

来年の学校心理カウンセラー

講座 盛岡開催

令和7年8月5～7日に、サンセール盛岡で開催されます。詳細は、後日、お知らせいたします。

岩手県教育振興基金

寄附者御芳名

(敬称略)

○県小学校長会 ○県中学校長会

盛岡地区(2名)

藤尾佳子・小松山浩樹

岩手地区(15名) 三浦英浩

最上未来・澤柳健一・奥智志

小野寺新吾・宇部輝彦・布田貢

三上純一・高橋淳子・千田満代

佐藤亘・高橋茂・三浦信之

木村洋・千葉竜也

紫波地区(4名) 平賀英和

関戸文則・渡邊剛・及川仁

花巻地区(1名) 小川口潤

遠野地区(3名) 照井宗克

井藤聡・沼田玲子

北上・和賀地区(2名)

熊澤裕樹・福井慎二

胆沢地区(3名) 古山昌幸

南幅正勝・大森啓陸

江刺地区(1名) 藤澤周一

一関西地区(5名)

熊谷浩二・小岩孝朗・青沼徹

古川泰也・菅原理日

一関東地区(3名) 真壁岳夫

及川祥子・大川憲一

気仙地区(5名) 堀井秀郷

吉田和浩・佐々木寿子

鹿糠博子・和賀真樹

スポット
その185

雨の日、校長室には、校庭で遊べない子どもたちの歓声が響き渡ります。けん玉の先生でもある前川校長先生の

もとに子ども

たちが集

まって、様々

な技に挑戦

しています。

前川岳詩校

長先生は、令和五年

度より本校に着任さ

れ、「みんなであつく

ろう！ハピネスス

クール中野小」をス

ローガンに、子ども

たちの元気な声と笑



顔があふれる学校を目指して、子どもたちと教職員、保護者も地域も一体となって取り組んでいます。校舎内では、常に子どもたちや職員に声をかけ、気を配り、目を配る時間を大切にされています。

また、岩手県小学校長

会長として、子どもたち

と教職員のウェルビーイ

ングの実現を目指して、

校長会事業の推進に取り

組んでいらつしやいます。

子どもたちの「できるように

なりたい、わかりたい、認めら

れたい」という願いにこたえるた

め、中野小学校では、前川校長

先生のもと、みんなであつく

スクールへの道を歩んでいます。

(副校長 水尻貴之)

釜石地区(5名) 五安城正敏

鈴木慎・細田多聞・戸羽太一

金野学

宮古地区(7名) 熊谷純

馬場ひとみ・片方元昭・木村香央美

大野誠・志賀誠・米倉重智

下北地区(3名) 岩間徳次郎

藤枝昌利・鎌田崇

九戸地区(3名) 飛澤克昭

板垣健・鎌田政好

二戸地区(5名)

高橋聡子・吉田隆・佐瀬智洋

若松優子・五十嵐智

○県中学校副校長会 (計67名)

盛岡地区(7名)

高橋栄敬・所礼江・久光文彦

中塚良久・津志田静徳

石亀典子・小野寺聖子

岩手地区(11名) 正木幸子

高橋真大・林田健志・及川朋子

岡田政志・黒淵貴典・加賀秀一

臼沢元・高橋香織・伊藤孝義

高橋成周

紫波地区(2名)

佐藤美樹・伊藤光喜

花巻地区(5名)

朴田香代・小岩美恵・吉田誠司

小野靖子・南浦元

遠野地区(5名)

松岡昇二・菊地亨・中館幸夫

尾崎光則・橋本大助

北上・和賀地区(5名)

高橋徹・八重樫蒼子・佐藤哲也

高橋玄・佐々木周

胆沢地区(2名)

金子美穂・佐藤裕太郎

江刺地区(2名)

松本孝嗣・三橋俊文

一関西地区(5名)

柳原和歌子・小林義幸

千葉孝行・阿部寿春・三上信也

一関東地区(3名) 吉田佳世

佐藤和博・高橋走

気仙地区(10名) 佐藤真樹子

細川浩史・金野裕見・五日市晴雅

小森慶子・高橋浩・宮澤広光

高橋英樹・片沼光輝・熊谷宗紀

釜石地区(4名) 和多田晋

三浦栄一・藤野智子・阿部正文

宮古地区(7名)

外館織絵・菅原恵美子

村井一彦・蛸島利江子

山内洋子・田村祥徳・小畑修也

九戸地区(5名)

及川竜太・小野寺英・土谷雄介

松川仁紀・石関浩明

下北地区(2名)

川村卓也・小室孝典

二戸地区(8名) 小野誠

高橋真弓・熊澤美幸・森田博

渡邊圭美・三松久恵・佐藤正輝

小野澤美由紀

(計83名)

今回は、(公財)岩手県育英奨学会へ一万円のご寄付をいただいた令和六年度新任小中学校校長の方々と、同じく一万円と岩手県教育振興基金に五千円のご寄付をいただいた令和六年度新任小中学校副校長の皆様を紹介いたしました。

多額のご支援・ご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

地区会だより

岩手地区会

今年度、岩手地区会では8月6日(火)サンセール盛岡において、総会・研修会を開催しました。また、同月29日(木)岩手町立川口小学校を会場に、授業公開・講演会を行いました。

研修会には95名の参加者を迎え、演題「夢しか実現するものはない」〜ミルクとワインとクリーンエネルギーの町くずまきの新たな挑戦〜について、葛巻町長の鈴木重男氏にご講演をいただくことができました。ご講演では、地理的には必ずしも恵まれているとは言えない条件の下、酪農、ワイン生産、風力発電、高校生の国内留学制度、子育て支援の充実など、様々な施策により、今日の充実した町政の運営を実現されていることについて感銘を受けるとともに、学校教育や学校経営等について参考となる貴重な研修の機会を得ることができました。



また、授業公開・講演会では、30名の参加をいただき、本会が推し進めている「岩手の先人教育」の一環として、「わたしの生きる道」〜宝塚の華・園井恵子〜を主題とする素晴らしい道徳の授業を、6年生担任の鈴木真由美教諭に提供いただきました。更に、その後の講演会では、演題「園井恵子」〜原爆に散った郷土の華〜について、園井恵子を語り継ぐ会会長の柴田和子氏にご講演をいただきました。



研修会の様子

ご講演では、園井恵子の生い立ちから、宝塚女優として大成するまでの苦労や、原爆で被爆死した悲劇等について、参考となる貴重な研修の機会を得ることができ、非常に有意義な講演会となりました。開催にあたってご支援いただきました日本教育会岩手県支部の皆様をはじめ、ご協力いただいた川口小学校の全職員、6年生児童の皆様、多数ご出席いただきました終身会員の皆様、地区校長会・副校長会・主幹教諭の皆様、誠にありがとうございました。

(事務局長 三田地 優)

遠野地区会

7月10日(水)「あえりあ遠野」において、令和6年度遠野地区会総会と講演会、懇親会を開催いたしました。総会には、終身会員と現職会員合わせて45名の参加がありました。

引き続き行われた講演会では、佐々木喜善賞選考委員会委員長である、民俗学者の赤坂憲雄氏を講師にお迎えし、「佐々木喜善の再評価について」と題して、ご講演をいただきました。



総会の様子

佐々木喜善が語り、柳田国男が書き上げた『遠野物語』を題目に沿って、解説してくださいました。貴重な研究資料をもとに語られる一つ一つのお話から、赤坂先生の遠野物語への深い理解と佐々木喜善への敬意の念が伝わってきました。単に「語りを聞いて書いた」作品ではなく、編むという作業を加えて出来上がった『遠野物語』は、佐々木喜善の果たした役割が大きく、柳田国男との共同作業であったという論に大きな感銘を受けました。改めて、佐々木喜善の業績と『遠野物語』を生み出した豊かな自然・恵まれた文化の地「遠野」の魅力を再認識する機会となりました。

りました。

講演会後には、三年ぶりとなる懇親会を開催いたしました。参加した約40名の会員は、挨拶を交わしたり近況を話したりと、会場は和やかな空気に包まれました。講師の赤坂先生にも参加していただき、講演の余韻を味わいながら、懇親を深めました。来年度の開催に期待を寄せる声も多くあり、年々一回の教育会の事業の重みを感じました。

(事務局長 菊池 国子)

江刺地区会

7月6日(土)、「ホテルニュー江刺本館」において、総会並びに研修会(講演会)・懇親会を開催しました。34名の会員の参加でした。

総会では、奥州市教育委員会の高橋勝教育長からご祝辞を頂きました。総会に引き続き行われた研修会では、「宮沢賢治 100年の光芒「奥州市」と題して、宮沢賢治記念館学芸員の牛崎敏哉氏から講演をいただきました。

「国立天文台・水沢VIBI観測所」と関わりがある、「風の又三郎」のテニスのシーンや詩集「春と修

羅」の中の「晴天恣意」。「銀河鉄道の夜」とブラックホールの研究。江刺の「種山ヶ原の夜」の歌。野球少年だった賢治の親友の詩「芝生」は、奥州市出身の大谷選手につながって紹介されました。そして、奥州市江刺梁川出身の大瀧詠一氏が初めて見た映画が「風の又三郎」だったこと。「君は天然色」を作詞した松本隆氏の「風街ろまん」は「春と修羅」をイメージしていたことなど、宮沢賢治が奥州のあちらこちらに現れるようにでした。最後には、会場に大瀧詠一氏の「君は天然色」が流れ、宮沢賢治と江刺のつながりが一層感じられる講演会となりました。



講演をする牛崎敏哉氏

講演会後には、講師先生にもご参加いただき、宮沢賢治のことや新入会員の紹介、会員相互の近況などを和やかに語り合う懇親会を実施することができました。

(事務局長 佐々木 由香里)

九戸地区会

7月2日(火)、久慈グランドホテルにおいて、総会・研修会並びに懇親会を開催しました。

総会では、県北教育事務所長の澤口良夫氏からご祝辞をいただき、ご来賓6名、会員77名の参加のもと、令和6年度事業計画、予算案等を協議し、承認いただきました。

引き続き行った研修会では、ひろのまきば天文台長の阿部俊夫氏をお招きし「地球 宇宙 そして人間」と題して、ご講演をいただきました。初めに、ひろのまきば天文台の魅力や星空観察についてお話いただき、続いて宇宙と私たちの関わりについて、銀河系や太陽系、地球のことなど様々な視点からお話いただき、多くのことを学ぶことができ、貴重な研修会となりました。

その後、行われた懇親会では、

現職会員、終身会員、ご来賓の皆様と杯を交わしながら親交を深めました。昔の話から現在の話など多くの話題、そしてたくさんの方々の笑顔で会場が盛り上がり、あっという間に時間が過ぎていきました。改めて、直接会って交流することの大切さを実感し、旧交を深める貴重な機会となった懇親会でした。

(事務局長 外館 邦博)



阿部俊夫氏をお招きして研修会

全国教育大会静岡大会

例年より一カ月早く10月12日(土)に、静岡市で開催されました。

次号での報告となります。

「あいさつ・返事・くつそろえ」

釜石市立平田小学校 校長 佐守 直人



「おはようございます」
元気に登校してくる児童のあいさつで、さわやかにスタートです。

東日本大震災もここで体験し、私は、留任七年目が決まり校長より六年生三十八名の担任を命ぜられました。

「被災で、みんなが下を向いている状態だから、佐守さんが元気にさせてほしい」

正直私もまったく元気がない状態だったのですが、子どもたちと一緒に元気になろうと決めて四月中旬に学校がスタートしました。あの時はしばらく給食がなくて、午前授業、集団下校の毎日でした。そして、ゴールデンウィーク明けあたりに給食が再開されました。ところが、初めはコッペパンに牛乳だけという日が何度も続きました。三回目ぐらいに、わたしは六年生に対してこう言いました。
「ごめんね。今日も牛乳とコッペパンだけみたいだよ」

するとある児童が言ったのです。「佐守先生そんなこと言っちゃだめだよ。給食があるだけでもありがたいよ。よくかめばパンも甘

い味がするよ」

そして、次から次へいろいろな児童がやりたいよとか、本当に甘く感じると言い始めました。この時、学級の児童全員が輝いて見え、自分の発言に後悔しました。

そして再び現任校長二年目。今年度の六年生も、朝は交代で挨拶運動、さらに一年生の登校後の道具の出し入れをしてくれました。すばらしい平田っ子は引き継がれています。

当時と違うことはと考えると、「あいさつ・返事・くつそろえ」です。これは、前任の鈴木崇校長先生が取り組ませていたもので、

現在も踏襲し、平田小学校であったり前にできるような日々と日々頑張っています。先日、全校朝会でこの三つのあたり前について話しました。まず「あいさつ」です。人と人との出会ったとき、必ず挨拶から始まります。



児童会によるあいさつ運動

次に「返事」です。返事は、話し手に対して、ちゃんと聞こえているかを示すものです。そして「くつそろえ」です。本校では、

奉仕委員会が毎日点検してその様子を放送で発表するので、多くの学年で気を付けて靴を揃えています。先日行われた、



陸上記録会でのくつそろえ

地区陸上記録会では、陣地の脇に、きれいに揃った靴が置かれていました。わたしは、これら三つのことを大人になるための訓練だと話しました。

全校朝会の後、私が出勤すると昇降口が開くの待つ児童が大きな声で挨拶をしてくれるようになります。朝会のはじめの言葉や終わりの言葉では、「はいっ」とちいさな「っ」をいれてたくさん児童が返事をしてくれます。そして、今日も靴箱にきちんと靴が揃えられているかを奉仕委員会の人たちが調べてくれています。

これからもこの三つのあたり前を「平田小ブランド」として子どもたちを大切に育んでいきます。

山の鐘

8月下旬の台風10号は「超ノロノロ台風」と言われ、間接的な影響により内陸や沿岸では大雨

による被害を受けた。これまでと違い、予測困難な台風が昨今増えている。被災された方々にお見舞い申し上げたい
▼台風が近づく中、学校では文化祭が無事開催され、PTAでは「お話聞かせてプロジェクト」等の新企画が行われた。

生徒とPTA会員が対話するシンブルな内容だが、70人超の生徒が訪れた▼評判は上々で、参加した保護者の方も「感心したり、一緒に悩んだり、楽しかった」とコメント。多感な時期の生徒にエールをという企画に新鮮さを感じ、また改めてPTAは地域人材の宝庫であり、学校の特色化・魅力化に欠かせないことを実感した▼一方、全国のPTA会員数が5年前に比べ約1割にあたる91万人が減少したという。今、PTAの組織のあり方が問われている。議論の際は、子どもたちの学びや成長の環境を豊かにしたいという思いを踏まえ、進めることが何より大切であろう。

(盛岡市立高等学校)

副校長 朝倉 雄大